

埼玉スタジアム2002メインピッチ芝張替芝種選定委員会
第三回会議 議事録

情報提供 実証実験の途中経過について

- 根長試験では、寒地型は根が深く暖地型のバミューダは浅い傾向が見られ、透水試験においても寒地型は保水性が高く、暖地型のバミューダは低い傾向が見られた。NDVIの値については寒地型は0.80程度、暖地型のバミューダは0.75程度で、芝生そのものの性質がよく出ている。
- 回転抵抗性試験で、ハイブリッド芝の強さが際立っているのは確認できたが、実験場所はピッチ外の隅で、プレーに対するストレスが掛からない場所なので、ノーストレスな環境でのデータと言える。そのため、値のみを見て優劣を二分するのは、単に芝生の性質を説明することはできるが、スポーツターフの能力を評価する為には、また違った視点があるのではないかと感じた。
- 前回の委員会で指摘のあった通り、データは根拠として把握しておくが、委員会として最終的に結論を出す際は、そのデータだけではない別の要素も入れた評価をしなければならないだろう。

議事（2）第四回会議の開催時期等について

- 第四回の会議は最終回となり、12月27日（金）の午前中に開催する。

議事（3）実証実験及び試験の今後について

- 実証実験については11月の試験を最終回とし、隔月もしくは3カ月に1回行う試験で12月を最終回としていた実験については、11月に前倒しする。
- 実証実験用に用意した芝については、12月27日（金）の最終回以降、スタジアムのスケジュールに合わせて速やかに撤去し、従前の寒地型芝に戻す。

その他

- 委員全員一致の意見として、硬さの視点およびプレーをする選手の視点を踏まえ、カーペット式のハイブリッド芝は選択肢から外してはどうかと考えている。

以上